様式1

令和２年度　学校評価表

学校教育目標	心豊かにたくましく　共に学び伸びる「けやきっ子」の育成

a ミッション	・組織的な学校経営と御調地域が一体になった教育の推進による学力の定着	**aビジョン** 〇自ら考え学ぶ児童が育つ学校 〇互いを認め合い、共に伸びる児童が育つ学校 〇論理的に考え、表現できる児童が育つ学校 〇教職員が育ち、その実践によって児童や保護者・地域の方々に信頼される学校

尾道市立御調中央小学校

							自己評価					学校関係者評価				改善計画
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	担当者	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ	ロ	ハ	l コメント	m 改善案
確かな学力の育成	基礎・基本の学力の定着	児童一人一人が自分の考えをもち，共に学び合える学級集団の育成	〇日々の授業改善 ・ノートに自分の考えを書く	標準学力調査（算数科）全学年で全国平均以上	教務	100%		106%	106%	A	標準学力調査の結果では，全学年での合計平均が全国平均を上回ることができた。しかし，学年によっては課題がある。全学年で四則計算等の基礎的な力を確実に付けていく必要がある。 算数科における単元末テスト80点以上とれている児童の割合は83%であり，基本的な力は付いている。児童アンケートから，図や表を使って考えを整理することのできている児童の割合は86%と前回より上回った。モデルノートを提示し，よいかき方を共有したり既習事項を活用したりすることで，自分の考えをかくことのよさや必要性を実感する児童が増えてきたと考える。ノートに自分の考えをかくことで，学習がより深まり，基本的な学力を付けることができた。今後，得た知識を次の学習に生かして学びをより定着させていくことが必要である。	3				・繰り返し学習や，ノートに自分の考えを書くことを重点に取り組んだことで学習が深まり，基本的な学力を付けることができた。学年によって課題も見られるので，モジュール等を活用して繰り返し学習を行っていく。 ・既習を活用して新しい問題の解き方を考えるようにすることで，学習することのよさや，考え方の定着をさせていく。 ・応用問題を身の回りの場面で設定し，活用する力を伸ばす。
				単元末テスト（算数科）（知識・技能）で80点以上の児童の割合	教務	80%	83%	83%	104%	A		3			先生方の取組が児童の力になってきていると感じる。モデルノートの提示により書き方や考え方が定着しているのではないか。ノートをもとに児童がより深く考えられる指導や手立てを期待する。	
豊かな心の育成	意欲や耐性を高めやり抜く力の育成	友達を大切にできる集団の育成	〇友達のよさを認め，友達に「ありがとう」や「ごめんね」が言える学級経営の充実 〇誕生日を祝う全校朝会の充実	児童居心地点検の結果〇の割合	生徒指導	90%	96%	99%	110%	A	居心地点検の結果〇の児童の割合　99% 居心地点検の結果から，ほとんどの学級で目標値の90%に達していた。各学級でトラブルはあるが，居心地点検時点では，居心地点検の結果〇の割合が，高くなっている。しかし，数値には表れていないトラブルは居心地点検前後で起こっている。どの学級でもトラブルは起こりうることを自覚し，日々の「積極的な生徒指導」によってトラブルの未然防止に努め，早期発見・解決していくことが重要である。	3			登校することが楽しいと思う児童が多いということは，学級経営・学校経営がうまくいっていると捉えられる。不登校児童が出ないような，子供の心を育ててほしい。	・児童の様子や毎月の居心地点検から児童の実態や様子をつかむ。また，児童の問題行動やトラブルは，解決に向けて丁寧に取り組み，状況に応じて保護者との連携を確実に行い協力して解決に取り組んでいくようにする。 ・どの学級でもトラブルは起こりうることを自覚し，日々の「積極的な生徒指導」によってトラブルの未然防止に努め，早期発見・解決していく。 ・担任に相談しやすく，児童同士で注意し合える学級づくりに取り組んでいく。
		規範意識の育成	〇挨拶の徹底 ・レベル５の挨拶 ・授業で挨拶の徹底	挨拶ができた児童の割合（居心地点検でのアンケート・教職員チェック）	生徒指導	100%	86%	93%	93%	B	レベル3以上の挨拶をしている児童の割合 （自分から　相手の目を見て　伝わる声で）　93% アンケート結果から，挨拶をする児童が増えてきたといえる。「挨拶レベル５」を各教室に掲示し，朝の会やアンケートなどで確認を継続することで児童に意識付けをすることができた。また，挨拶名人の表彰をしたり，よい挨拶ができている児童に対して全職員で肯定的な評価をしたりすることで意欲を向上させることができた。学校外での挨拶や来校される地域の方や外部の人に挨拶をする児童も少しずつであるが増えてきた。	3			学校を訪問した際に，挨拶をする児童が多くなった。嬉しく思う。	・引き続き，挨拶名人の表彰をしたり，挨拶のできた児童に対して全職員で肯定的な評価を行ったりしていく。 ・学校便りや通信等で取り上げたり，挨拶をするよさ（①気持ちのよい１日のスタートが切れる。②笑顔になる。③印象がよくなる。④会話が始まる。＝良い関係になる。）を伝えたりしていく。 ・レベル５の挨拶を生活目標に位置付けて意識を高める。また，毎日学級で帰りの会などの時間を使い，１日の自分の挨拶を振り返らせて，全児童がレベル５になるようにする。
健やかな体の育成	基本的生活習慣の充実	生活習慣の確立	〇給食を食べきる声掛けの徹底	残菜率（主菜＋副菜の総重量比）（給食センター）	栄養	2.5%以下	4%	2%	99%	B	7～9月は残菜率が4%以上であった。これは、暑さによる食欲不振が大きく関わっていると考える。給食時間の放送や栄養教諭による声かけにより，給食をしっかり食べる意識をもつ児童が増えて12月は残菜率が2.6%となった。しかし，依然として副菜の残菜は多い傾向にある。	3			感染症対策も大切ではあるが，楽しい給食時間になればよいと思う。 アレルギーのある児童への指導も継続してお願いしたい。	・継続して「生活ふり返り表」を使って，早寝，早起き，朝ご飯，メディア時間などの生活習慣を家庭で見直す週間や児童が給食や外遊びや歯磨きについて自己評価する「元気にすごそう週間」を設定し，生活習慣を整える意識をもたせるようにする。 ・昨年の体力テストの結果から，走力に重点を置いて年間を通して測定・記録していくことで，より直接的な体力の向上を図り，児童が自分の体力の向上に気付くことができるようにする。
			〇歯磨きの奨励	給食後歯磨きをする児童の割合（チェックシート）	養護	90%	92%	93%	103%	A	1学期は92%の児童，2学期は93%の児童が給食後の歯磨きをしており，給食後の歯磨きが定着している。3学期は，新型コロナウイルス感染症の影響があり，歯磨きをしている時に「話をしない」「密になりすぎない」などの課題があり，養護教諭等が声かけを行った。給食後の歯磨きについては，感染症予防にも継続して配慮していく必要がある。	3			運動場で外遊びをする児童が増加していると感じる。今後も継続して声かけを行い，外遊びに出られる児童が増えるようにしてほしい。	
			〇外遊びの奨励	昼休憩外へ出て遊ぶ児童の割合（教職員チェック）	保体	100%	83%	90%	87%	B	1学期は委員会や金管練習のある高学年を中心に達成率が低かったが，2学期は担任から外遊びにでるように声かけをすることで高学年の割合が増えた。また，マラソン大会やなわとび大会など目標をもたせることで自主的に外に出る習慣も身に付いた。					

【自己評価　評価】
Ａ：１００≦（目標達成）　　Ｂ：８０≦（ほぼ達成）＜１００
Ｃ：６０≦（もう少し）＜８０　　Ｄ：（できていない）＜６０

【外部評価】　イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。　ハ：わからない。